ＪAいわて平泉 コミュニティー紙 2026秋 第 26 号

そ～じゃ＊い～じゃ

So~JA*E~JA

＊消費者×生産者×地域×JAをつなぐコミュニティー紙＊

農業体験で食と農のつながりを学ぶ


①


③


②

泥だらけだけど、
田植え楽しいです！



こんなに
収穫できました！




④


⑤


⑥


⑦

①親子でミニトマトを栽培（わくわく純情プランター）②手作業で田植え体験（東山小学校）③サツマイモの苗を植え付け（二葉きらり園・平泉）④収穫した稲をわらで束ねる（厳美小学校）⑤地元農家が紙芝居で田植え指導（川崎小学校）⑥バインダーの操作に挑戦（厳美小学校）⑦手作業で稲刈り（黄海小学校）



ＪAいわて平泉
マスコットキャラクター
このみん

ＪAいわて平泉では、「食と農を基軸として地域に根ざした地産地消、国消国産」の推進に取り組んでいます。その一環として次世代を担う子どもたちの食農教育や体験学習の支援を行っており、地元生産者と連携したり、ＪA独自に企画したりしながら、田植えや稲刈り、野菜の栽培などを指導しています。

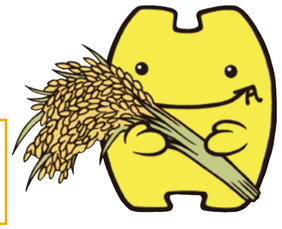
JA共済の地域貢献活動
農業のために 地域のために 明日のために

JAいわて平泉
いわて平泉農業協同組合
〒021-0027 岩手県一関市竹山町 7-1　☎0191-23-3006 (代)

国消国産
こくしょうこくさん



実践しよう！ 大事な食を守る「国消国産」

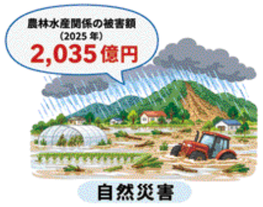


「国消国産」という言葉を聞いたことはありますか？「地産地消」は知っているけれど…という方も多い のではないかと思います。「国消国産」とは、ＪＡグループが推進している、「私たちの国で消費する食べ物は、できるだけこの国で生産する」という考え方です。このページでは、ＪＡグループが「国消国産」を 重要視する背景や、「国消国産」に取り組むとどんな良いことがあるのかを紹介します。

日本の「食」が直面するさまざまなリスク

今、日本の食料自給率は３７％※で、食料の約6割を輸入に頼っています。この大きな要因は、農家の減少や高齢化など生産基盤の弱体化、肥料や飼料など生産資材価格の高騰です。さらに、日本を含め世界中で自然災害が多発しています。日本が多く食料を輸入している国で災害などが発生し、食料生産が大幅に減少したら、日本の食生活にも大きな影響を及ぼしますが、食料の輸入量は増えています。加えて、今後、世界的な人口増加が予測される中、輸入量を確保し続けられるのかという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しているのです。

※カロリーベース　2025　農水省による





※農水省「令和7年度食料・農業・農村白書」



※農水省「農林水産物の輸入・輸出に関する統計」



※農水省「令和６年５月農業物価統計調査」



※国連人口部「世界人口推計２０２４年版」

私たちにできること

では、私たちは具体的にどのようなことに取り組むとよいのでしょうか。すぐ取り組めるものに、その地域で生産された農畜産物をその地域で消費する「地産地消」が挙げられます。直売所などを利用することで新鮮な地元の農畜産物に出会えます。さらに、食材の長距離輸送に伴うＣＯ₂排出削減の効果があり、環境負荷を減らせます。「地産地消」や「国消国産」は、日本の食と農だけでなく、ＳＤＧｓにも良い効果をもたらします。

地産地消

- ●地域で生産
- ●地域で消費
- ●「食」や「農業」の理解
- ●食料自給率の向上
- ●地場産への愛着心や安心感

例えば私たちにできること

- ●ファーマーズマーケットを利用する



国消国産

- ●食料安全保障
- ●食料自給率の向上
- ●生産基盤の維持・拡大
- ●次世代の担い手確保
- ●多面的機能の維持・増進
- ●環境負荷に配慮した農業
- ●ごはんを中心とした日本型の食生活

持続可能な地域
農業地域社会づくり



例えば私たちにできること

- ●国産農畜産物を選んで食べる
- ●ごはん(お米)をもっと食べる

SDGs 持続可能な開発目標

＜JAグループの取り組み＞

「飢餓をゼロに」
- ●子ども食堂やフードバンク※1への食材提供

「働きがいも経済成長も」
- ●農業従事者への各種支援

「つくる責任つかう責任」
- ●フードロス削減
- ●エシカル消費※2の推進
- ●農業生産における環境負荷の軽減など





「国消国産」はSDGsの達成に貢献

地域で　日本で　世界に

※１　食品を寄贈により集め、生活困窮者や福祉施設へ無償提供する活動　　※２　人や社会、地域、環境に配慮した消費行動

ＪAの「国消国産」に向けた取り組み

ＪＡグループでは、食や農業を通して「国消国産」を理解してもらう活動をしています。当ＪＡでは、管内の小学生がミニトマトの栽培に挑戦し、食農イベント「わくわく純情プランター」を３回にわたり行いました。

第１回（5月16日開催）



ミニトマトの栽培に挑戦

第2回（6月27日開催）



ミニトマトの生育状況を確認し、職員が指導

第3回（8月7日開催）



ライスセンターを見学して農産物流通に理解



「いわてから国消国産」はこちらから



JAタウンのサイトはこちらから

ＪAいわてグループでは、生産者の生の声を届けるなど、「国消国産」をPRするWebサイト「いわてから国消国産」を運営しています。

また、全国のＪＡから産地直送で、旬のおいしいものをお届けするお取り寄せ通販サイト「ＪAタウン」では、送料が無料になるキャンペーンを10・11月の間展開しています。

10・11月は「国消国産月間」！

令和3年、ＪＡ全中は、国連が定めた10月16日の「世界食料デー」に合わせ、同日を「国消国産の日」として制定し、日本記念日協会に登録しました。そして、令和4年には、「国消国産の日」を基点 に、 10・11月を「国消国産月間」として定め、全国のＪAグループ各組織がイベントやシンポジウム、広報誌、ウェブサイト・ SNSなどを活用し、日本の食と農の大切さについて情報発信強化に努めています。令和７年からは、ＪAグループが展開する「みんなのよい食プロジェクト」のシンボルマーク・「笑味(えみ)ちゃん」と「ハローキティ」がコラボして国消国産を応援しています。ＪAグループは皆さんと共に、「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。

笑味(えみ)ちゃん × HELLO KITTY



© みんなのよい食プロジェクト
© 2026 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL NO. L663809

JAグループのホームページはこちら

未来を担うJAの笑顔

誠実な対応ができるように

JAいわて平泉 園芸課　伊藤（いとう） 輝哉（てるや） さん(21)

今年JAに入組した伊藤輝哉さんは、園芸課でホウレンソウやトマトの営農指導を担当しています。営農指導は生産から販売まで多岐にわたるため、優先しなければならないことを考えながら業務にあたっています。「営農指導は生産者をサポートすること」と、出荷状況や市況、他産地の情報などさまざまな情報を正確に提供できるよう心掛け、生産者を巡回しています。「産地が発展するよう、課題解決などに誠意を持って取り組みたい」と意欲を見せます。休日は、祖父母が営む稲作の手伝いをしたり、旅行に出掛けたりしてリフレッシュしています。





丁寧でスムーズな対応を目指して

JAいわて平泉 平泉支店　吉田（よしだ） 遥奈（はるな） さん(21)

平泉支店の信用窓口を担当する吉田遥奈さんは今年４月にJAに入組しました。貯金の入出金や定期貯金・定期積金の手続きなどの業務を担当しています。お客さまをお待たせしないようスムーズな対応を心掛けています。「言葉遣いに気を付け、聞かれたことに素早く対応できるようになりたい」と話す遥奈さん。タブレットでの手続きやキャンペーンのお知らせなどをお客さまにお伝えしながら業務を進めています。趣味は写真を撮ることで、休日は一眼レフカメラを片手に、自然や街並みなどを撮影しに出掛けることが楽しみと笑顔を見せます。

LET'S COOKING　新米で食べたい　椎茸大葉の肉みそ



野菜ソムリエプロ
木村 千恵美さん



〈材料〉おにぎり約10個分

- 干しシイタケ（生シイタケでも可）… 15ｇ
- 豚ひき肉 …… 50ｇ
- みりん …… 大さじ2
- 砂糖 …… 大さじ2
- みそ …… 大さじ4
- ごま油 …… 大さじ1～
- 大葉 …… 10枚

① 干しシイタケは、ひたひたの水で一晩冷蔵庫で戻し、水分を絞って、7ミリ程度の粗いみじん切りにする。大葉も大きめのみじん切りにしておく
② 熱したフライパンにごま油を入れてひき肉を炒める。色が変わったらシイタケを加え、油がなじむように炒める
③ 火が通ったらみりん、砂糖、みそを加えて全体になじませ、砂糖がむらなく溶けたら火を止め、刻んだ大葉を混ぜ合わせる

FM AGITO　JAオリジナル番組
「So~JA*E~JA」
放送内容は…
【朝からこんにちは】
毎週、管内の生産者が出演し、生産にかける思いや旬な農産物をご紹介します。
【生産者特集】
生産者の皆さまへ耳寄りな情報をお届けします。
【くらしのヒント！】
JA事業の素材を活用にお役立します。
【JAフレッシュインフォメーション】
JAの若手職員が、JAからのお得な情報、イベント予定などをお知らせします。
毎週火・木曜日
午前９時10分、
お昼12時50分から
絶賛放送中！

令和８年度 収穫感謝祭を開催します！！



管内で生産された品質・食味共に良好な、贈答用リンゴ（サンふじ・王林・シナノゴールドなど）をはじめ、新米やりんごジュースなども販売します。

日程および会場

11月22日(日)
午前９時30分～午後２時
JAいわて平泉 大東支店
（一関市大東町摺沢字菅生前61-3）

お問い合わせ
JA園芸課　☎0191-34-4003

JAバンク岩手
ウィンターキャンペーン2026
2026年11/2(月)-12/30(水)まで



詳しくは、JA各支店まで

JAいわて平泉広報誌
KOSHERU
こしぇる
組合員向けに発行しております JAの広報誌「KOSHERU(こしぇる)」は、JAホームページにてご覧いただけます。
地元の農畜産物など、盛りだくさんの情報をぜひご覧ください。
https://ja-iwatehiraizumi.or.jp



各種SNSでも情報発信中！
インスタグラム　Facebook　YouTube

プレゼント！

「So~JA*E~JA」をお読みになってのご意見・ご感想をお寄せください。お寄せいただいた方の中から抽選で10名様に図書カード(1000円分)を進呈いたします。なお、当選者はJA広報誌「こしぇる」1月号にて発表いたします。

応募方法

官製はがきまたはメールにご意見・ご感想と、住所・氏名・年齢・連絡先電話番号を明記の上、下記宛先までご応募ください。

応募締め切り 令和８年11月末 ※ご記載いただいた個人情報は、プレゼントの発送、JA広報誌での紹介にのみ使用させていただきます。

〒021-0027　一関市竹山町7-1 JAいわて平泉　総合企画課
E-mail:kosheru@ja-iwatehiraizumi.or.jp